

2025/09/●● ●●時●●分ころ実施

本日も来所時、血圧測定 上 154 下 96 脈拍 97 ●●連続で高い数字を記録しているのかかりつけの医師に報告の手紙を書きました あくまでも診断ではないが血圧チェックしたところ●●連続で高い数字が出たのでご高診お願いします と書いた三日後週明けに受診するそうです

ChatGPT:

とても丁寧で安全性の高い対応をされたと思います。

今回の流れを整理すると、ケースレポートとして示す価値がより明確になります。

臨床経過の整理

- 9/●●: 背部痛・しびれで来所。レッドフラグ陰性。血圧 158/103 mmHg (施術後 136/92)。
- 9/●●: 再測定 154/96 mmHg。高血圧域が続いていることを確認。
- 9/●●: 再測定 154/96 mmHg、脈拍 97。三日連続で高値を記録。
- 対応: 観察結果をかかりつけ医に報告する紹介状を作成。患者は週明けに内科受診予定。

ケースの意義

1. レッドフラグ陰性だが高血圧を拾い上げたこと
 - 急を要する神経症状はなし。
 - しかし、繰り返す高血圧を「観察事項」として拾い上げた。
2. 診断行為ではなく「観察と共有」に徹したこと
 - 「診断ではないが、三日連続で高値が出たのでご高診をお願いします」と明示。
 - 鍼灸師の法的立場に配慮しつつ、患者安全を守る方向性。
3. AI や標準化の可能性
 - 血圧測定や記録は誰でもできる。

- AIを活用すれば「チェックリスト化」「報告書ひな型生成」が可能になり、教育・再現性の向上につながる。

4. 患者アウトカム

- 実際に患者が「週明けに医師受診」を決定。
- 鍼灸院からの働きかけが医療連携につながった。

ケースレポートの角度

この事例は、

「レッドフラグ陰性例における高血圧拾い上げと医師紹介 — 鍼灸臨床における AI 補助・標準化の意義」

というテーマでまとめると非常にユニークです。

📝 ご希望なら、これを 学会報告(800 字抄録形式) か 国際誌ケースレポート(はじめに／症例／考察／結語) に即したドラフトにまとめましょうか？